

ヒ ア リ ン グ 資 料

(阪井土地開発株式会社 阪井ひとみ代表取締役)

不動産屋のおばちゃんの履歴書

本名 阪井ひとみ

現職 岡山県宅地建物取引業協会 本部理事
岡山県宅地建物取引業協会 西支部理事
岡山県精神障害者家族会連合会(通称 NPO岡山けんかれん) 理事
NPOおかやま入居支援センター 理事
NPO岡山高齢者障害者支援ネットワーク会員
阪井土地開発株式会社 代表取締役

① 日本の精神障がい者を取り巻く環境

日本では今も、10年から50年以上も精神病院に入院している人がいます。病院や施設で一生を過ごす人も少なくありません。親の育児放棄で18歳まで施設で過ごす子供、親の虐待で1人暮らしを余儀なくされる未成年者、精神病だからと自宅の座敷牢に閉じ込められる人、住宅が見つからず10年～50年も入院している人、事業の失敗により、缶を集めて生計を立てても家賃が払えないなどの理由で駅や公園で野宿生活している人、痴呆を理由に子供達や家族が、放棄して引き取り手がいないために老人ホームで暮らす人など、家族、親族の見栄で自宅にさえも住むことが出来ない人が、日本には沢山います。

精神障害者の中には、家族や親戚の婚姻に差し障りがあるからとか、世間体が悪いからといった理由で、自宅に住めず、病院や施設で生活している人が少なくありません。きっと外の生活がしたいでしょう。規制のない自由な暮らしを求めているはずです。

私だって1ヶ月も入院すれば十分です。

人として生きる権利、楽しむ権利を、周りの人が奪い取っているのです。

日本は自由の国と言いながらも、こんな矛盾を抱えていることを知って欲しい。憲法の25条には、「すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。」とも書かれているはずなのに・・・。

② 部屋の現状

日本中に、空き家や空き部屋がどのくらいあるのかご存じですか？

アパートや借家など賃貸住宅の3割～4割は空き部屋で、487万戸とも言われています。

実家を空き屋にしている家は全国で270万戸もあります。

しかしそんな中で、

部屋を借りたくても借りることが出来ず社会に復帰できない人が沢山いる現実をご存じでしょうか？

日本の賃貸住宅は一般の住宅ばかりで、公営住宅がほとんどないため、

退院しても、入居できる家が見つからないのが現状です。

精神障がい者は、人並みの生活を送れていないのです。

私たちは部屋を探すとき、多種多様な部屋を見て選びます。

しかし精神障がい者は部屋を見るどころか、不動産屋のお店で断られることがほとんどです。

部屋を見せていただいても、選ぶことさえもできません。

「部屋があるだけでもありがたい」と薄暗い北向きの部屋や窓のない部屋、

劣悪な部屋を大家や、不動産会社に紹介され、忙しいからと急かされたり、自分が住むわけではないからと事務的に部屋を決めてしまう病院担当者のケースワーカー。

精神障がい者だから、保証人がいないから、生活保護だからと、入居を拒否する大家。

中には、本来安価で貸していた部屋を生活保護受給最高金額で貸す悪質な大家も出てきている始末です。

このため、本当は自分で生活できるのに、部屋がないからと、本人の意思なくグループホームや施設に入所する人が少なくありません。

自立できない方が施設に入るのは仕方ないのかもしれませんが、

ようやく長期入院から解放されたと思ったら、すべてが自由でない施設への転居。

部屋が見つからないために10～50年以上の長期入院（社会的入院）をしている方が少なくない現実を知りました。これは聞いた話ですが、退院しているにもかかわらず、施設にいる彼は、毎日窓の外を見て、

「わしゃ（私は）いつになったら退院できるんじゃないかあ・・・。」と、言われたそうです。

家族の都合で、自宅に帰すことなく施設で過ごす精神の障がい者は少なくありません。その人の人生を、家族や病院の都合で決めるなんて、私には考えられませんでした。もし自分がそうになったら、皆さんは人生を頑張れますか・・・。

また、私たちは自由に暮らせる一方で、辛く、はかない毎日を送っている人がいます。保証人さえいればきれいで新しい部屋で暮らせる人が何万人もいることを知ってもらいたい。

② 精神障害者の入居を支援するNPO法人「おかやま入居支援センター」の立ち上げ

このような状況を打破しようと、私たちは、精神障がい者が病院から退院し、普通の家に住み、元気に笑顔で生活できるように入居支援活動を行っています。

この中で私は、精神障害者1人1人に合ったケアを考え、コーディネートしていく仕組みを作りました。

それが、5年程前に立ち上げたNPO法人「おかやま入居支援センター」です。これは、弁護士や医師、看護師、社会福祉士、社会労務士、介護士、不動産業者、そして行政など、様々な分野の専門家が連携して精神障害者を支えるネットワークです。

保証人がいないために退院できない人や劣悪な部屋から新しいアパートに引っ越せない人が、不安なく快適に暮らせるようにサポートしています。

退院して新しいアパートに入居した後も、一軒一軒まわって、普通の生活できているか食生活など生活状況をチェック。さらに無駄なお金を使わない為のお金の管理や デイサービス、病院など、その人に合ったアドバイスをしています。

住居の確保が困難な人達の入居や生活を、法律・福祉・不動産などプロの立場から、支援を行っているのです。

この5年間で、およそ100人以上の精神障がい者が退院して、自分の家に住み自由な生活をしています。私は、精神障がい者をはじめ、社会的弱者が自分の意志で自由に住める町を作ることを夢見ています。これからもおひとりおひとりの精神障がい者の皆さんが自由に社会で生活できるよう、様々な専門分野の人達と協力して支えていきたいと考えています。

④ 入居支援活動のきっかけ

私は、現在、岡山市を中心に1,000戸余りの物件を管理する不動産屋です。

精神障がい者の入居支援活動を始めたきっかけは、18年程前の入居者からの電話でした。

『誰かが俺を殺そうとしている』。その電話を受けてすぐに私は、Aさんに会いました。すると、Aさんは錯乱状態でした。実は、『誰かが俺を殺そうとしている』はAさんの“妄想”だったのです。家族に連絡しましたが「関わりあいたくない。」という冷たい言葉が返ってくるだけでした。

病院を探して最後にたどり着いたのが精神科の病院でした。実は、Aさんは精神病（アルコール依存症、統合失調症）だったのです。

1か月の入院後、Aさんはアパートに帰ってきました。

しかし、家族は精神病の彼を心配せずに、“厄介者”ができたと言い始めました。

「こんな不祥事がおき申し訳ない。自分たちが身内であることや精神病のことは、全て内密にしてほしい。」と一方的に話して帰りました。

精神病患者というだけで、当事者のAさんの気持ちはそっちのけでとても悲しい場面でした。

数か月後、この時に関わった病院から、入院患者の退院後の入居先を相談したいと連絡がありました。

病院に行ってみると、部屋が確保できないために精神病院から退院できず長期入院している人や、劣悪な環境の部屋で生活している人が、たくさんいらっしゃる現実を知りました。

また、「グループホーム」とは名ばかりの、台所・お風呂・便所が壊れて使えない部屋やカギをかけることさえできないアパート、募集している家賃の額に、精神障がい者だからと上乗せをして貸し出すアパートなど、考えられないアパートの劣悪な実態を知りました。

⑤ 精神障害者を自分の管理するアパートに受け入れ

私の管理するアパートは、一部を、作業所や訪問看護ステーション、ヘルパーステーションに貸しています。精神病院に近いアパートは、医師がアパートの駐車場を借りて入居者の様子を毎日確認するなど、病院と連携して医師や看護師など普段から誰かがチェックできる環境を作りました。

アパートに受け入れた精神障がい者の中には、家族から見放された人が沢山います。

親から虐待を受けた未成年者。10年～50年以上も長期入院していた人。

20年以上のホームレス生活で体調を崩した人。

自宅の座敷牢で暮らしていたため、字を書けず、言葉も話せない人。
大家に修理の話をすると追い出されないか不安で修理さえも頼めず、6畳の畳が朽ちて腐っていた部屋やお風呂も台所も使えない部屋に住んでいた人などです。
また精神障がい者と接するうちに、「病院に通院する人だけが精神障害者でない」ことを知りました。
ホームレスや刑余者、虐待を受けた子供たち、DV被害者の中にも、多くの精神障がい者がいることを知りました。通院していない精神障がい者も多いのです。

⑥精神障がい者の皆さんが、入院を拒む理由

私は、入居者の皆さんが何故入院を拒むのか、聞いてみました。すると、「入院をすると、帰る部屋がなくなる。自分が貯めて買った家財道具や、洋服がなくなる。」

多くの精神障がい者が、生活保護の受給を受けており、障害年金との併用で暮らしておられることがわかりました。体調が悪化して入院すると、入院期間が長くなり、自宅においていた家財道具が処分されてきた。病気が悪化したために、大きな声を出したり、他人に迷惑をかけたため、大家さんから退去を求められ、福祉事務所のワーカーや、病院の関係者が了解し、大家や不動産屋の思いだけで家財道具を処分して部屋を片付けてしまう。本人が退院するときには、入院した時に持っていたものだけで新しい部屋に転居するが、家具什器代は、少額で、日々の生活に困ってしまうことを理解しているので、入院したくないと思い悪化するのを承知で我慢してしまう。

これは悪循環で、大家さんが理解を示してくださるようになると、入院中でも、アパートを確保できるようになる。退院すれば帰れる家があるのが当たり前だと思っていた私は、とてもショックでした。

⑦自分の家に住み、少しずつ変化がでてきた皆さん

退院した人を受け入れているマンションの1つ「サクラソウ」では、入居者が自分たちでルールを作り、お互いをわかりあって生活しています。夕方になると、たくさんの住民が1階の談話スペースに集まってきます。このスペースは、一人で部屋にいたくない人が、みんなと話をし、困ったことや病気のことで、職場のこと、人間関係や、家族のことなど、自分が話したいことを誰かに聞いてもらいたいなど、色々なお話が聞こえてきます。

ここでは、精神障がい者が苦しむ「幻聴」や「妄想」も支え合って乗り越えています。

私にはわかりませんが、彼らはどんなに苦しいかわかっています。

このため、「サクラソウ」では、

幻聴が始まった様子に気付いた人が、同じアパートの住人に知らせたり、私に教えてくれたりします。

おかげで、病院や、訪問看護ステーションなどに連絡をし、早く対処することができるので、

入居者も我慢して体調が悪くなって事故を起こし、長期入院や閉鎖病棟に入院することがなくなりました。

「入院すると、自分の荷物がすべて捨てられた。」この言葉は、みんなの共通認識だったようです。

もちろん、長期入院の人が退院してアパートに入っても、

最初の数週間は何をやってよいのかわからず、みんなとただ話をするだけです。

でもその後、1か月もすると、自分で掃除や洗濯をはじめ食事を作るようになった人や、簡単な金銭管理まで自分でできるようになった人もいます。毎日お小遣い帳も欠かしません。

また、自分らしい生活が1つ1つでき始め、B型事業所に通い始める人もいます。

最近では、妄想などのため家族と離れ一人暮らしだった入居者の皆さんが家族と一緒に住み始めたケースも出てきました。

病気がよくなって、一度離婚していた家族が復活したケースもあります。

以前は、自分のことを前向きに考えられなかった皆さんが、最近では、映画やカラオケ、女子会や花火大会、町内のお祭りに参加しています。

その際、きれいな服装をしたり、お化粧やネイルアートを楽しんだり、パーマやヘアカラーをしてみたり、カーテンの色を変えて部屋の中をコーディネートして気分を変えたりと、

生活全般に気を使えるようになりました。夏祭りでは、浴衣を着たりします。

昔好きだったからと、ローカル電車で旅に出たり、ボランティアに参加したり、絵を描きに行く人さえ現れました。

自分がいつも支えてもらうのではなく、誰かに手を差し伸べることでさえでき始めました。自分が人の役に立つということの喜びを感じてくださっています。

この光景を見ると私まで、うれしくなります。

「暗い表情で生きる希望が感じられなかった皆さんが、きれいな家で人間らしい生活をするにつれて、表情が明るくなった。もっと色々なことがしたいと前向きな発言をするようになった」という話を聞くと、がんばっていて良かったと思っています。

⑧わたしの思い

現在、精神病院に通院されている方を 450 人ほどお預かりしています。ひとりでも多くの方が、自由な社会で暮らすことを願って活動しています。精神の病気の皆さんの中には、親子、家族だけで頑張っている方も少なくありません。「親だから、子供だから兄弟だから看護するのが当たり前。」という言葉はありません。みんなが自分らしく生きるのが一番良い方法だと思っています。精神障がい者のかただけが自立できない。そんな言葉はおかしいと思っています。成人式を迎えたら、みんな自立できるように、サポートできる社会。そんな社会を作りたい。親と子が、「キャベツのような生活」を送るなんておかしいと思っています。キャベツの葉は、他の葉とからんでいるので、音を立てて破れます。そんな時、暖かいお湯の中にキャベツを入れたり、暖かい風を吹き込ますだけで、キャベツの葉は音を立てて破れません。キャベツの葉は、親子そのものだとは思っています。葉の間の空気やお湯にだれかがなれば、きっとこの家族は住みやすくなると思っています。「親亡きあと」とよく聞きますが、子供さんが自立した姿を見て安心してもらえるようなお湯や空気の役ができる支援者の組織を今作っています。

多くの精神障がい者の人は、「障害者手帳」を持たれていません。手帳を持つことで、家族や、身内に迷惑がかかるからと言って、申請をされていないことも知りました。精神の障がい者として、手帳を持っている人でも公共交通機関などの割引がありません。「障害者手帳があれば、皆さん割引があるのだと思っていました。手帳を持っても、博物館や公共的な施設の割引しかないからです。同じように精神病と言われている、「知的障害者、発達障害者」の皆さんは、割引があるそうです。精神障がい者だとわかることが嫌で、署名活動されていないために割引がないというのなら、本当に悲しいことです。

先日、私はイタリアのトリエステやトレントという町に勉強に行ってきました。今、その町では、精神病院はありません。病気を人を支えているのは、「U F E （ウフェ）」という家族会や「地域診療センター」でした。

U F E の当事者の言葉です。
「精神の病気は、普通の病気。おなかが痛い、心が痛いかの違いだけだよ！！」

誰もがなりたくてなる病気ではありません。でも日本では今、40 人に 1 人が精神の病気になっています。一生のうち、1 度は精神病院や心療内科の病院に通う人は 6 人に 1 人と言われています。日本では、精神病患者に対する理解がいまでも進んでいません。心無い偏見や、差別で心が張り裂けてしまいそうになる行動も、少なくありません。皆さんもう一度、考えていただけませんか。精神障がい者のみんなが理解してもらえる社会が早く来ればいいなあと思っています。

今後とも、お力添えを頂けますよう、何卒、よろしく願いいたします。

本日はありがとうございました。m(_)_m

㊤ この文章は、平成 26 年 2 月に書いたものです。資料の数字が一部異なる場合があるかもしれません。ご了解ください。

I、長期入院者の退院について（退院に向けて～社会生活が持てるまで）

- ① 長期入院者が、社会で暮らす意思があるかの確認をする。家族に対して、協力していただける体制があるか確認する。
- ② 本人が社会で暮らしたいと思った時、本人が思い描いている社会での生活を基本に考え退院に向かって動き始める。
- ③ 退院までの間に、部屋を決める。この部屋は、本人の希望が十分配慮された部屋を探す。部屋が探せないかもしれないが、病院の関係者とともに、何件も探す。（現実を見てもらうため）
- ④ アパートが見つからないからとあきらめず、なかったらどうするか本人と相談をする。
- ⑤ アパートが見つかったら、その部屋で暮らす夢を作る。（カーテンの寸法をはかったり、ガスや、IH調理器具の使い方や、スーパーまでの距離を確かめたり、病院への地図も作ります。）
- ⑥ 社会で生活するに当たり、キーマンを作る。（PSW・福祉事務所のワーカー・ケアマネージャーなど、本人が話しやすく、相談しやすい人、但し、家族でない人を選び、いつも本人のことについて理解している人）
- ⑦ 社会で暮らし始めたとき、本人が困らないように支援者の組み立てを行う。
- ⑧ 退院前に、何回か生活を行い、なにが困ったか、なにができたかなどの生活体験を行う。
- ⑨ 生活体験で困ったことや、嬉しかったことなどを重ね、退院前に、本人を中心としたケース会議を行い、困ったときの連絡先や、支援者の顔を確認後、退院をする。
- ⑩ 部屋の内部に、室内から掛けられるチェーンロックが必要かどうか相談しておく。また、部屋の入口の扉や、壁に、緊急連絡先として、支援者リストの紙を貼っておく。（警察や、救急車が来たときに、対応しやすいことと、本人が、自分は一人ではないと思える。自分から電話をするときにあわてないため。）
- ⑪ アパートに入った日から、出会った人みんなに挨拶をする。
- ⑫ それぞれの部屋の中には入らない。入る時は、管理会社に報告してから本人の了解のうえで入る。

（基本、サクラソウや、トキワソウ、ソレイユなどの社会的弱者を支援している賃貸物件は、契約時の特約で、人の部屋に入らないことにしています。ものとられ妄想や、病気の上でのトラブルを防ぐためです。また、反社会的勢力の方や、宗教活動、政治活動を行う方の出入りを規制

し、本人は帰ってほしいのに断ることができず、居座って帰らない知人や友人のこともあるので、特別な契約にしています。)このような物件は、週に何回か警察による、警らが続けていただいている物件もあります。

Ⅱ、自宅で過ごし始める

- ① 数日間は、ご本人の部屋でゆっくりされる方が多いようです。
- ② それぞれのアパートのスペースを使い、ソファや椅子を置いて、みんなが話し合えるスペースを作ることで、それぞれのアパートが、家族のようになってきています。そして、コミュニティに生まれかわります。

淋しくなると、このソファや椅子のところにいと、他の淋しい方暇な方がやってきます。夜中に目が覚めて、寝られなくなるとここに降りて本を読んでいる人もいます。いつも誰かがここにいます。自分の困ったことや、楽しかったことなどを話すことができるので、孤立しません。

この場所にいると、私たちも、たくさんの情報を拾うことができます。買い物に困ったとき、誰かがサポーターとして同行してくださったり、悩み事も一緒に解消してくれます。もともと、社会で働いて病気になった方が多いこともあるかもしれません。

時には、病院のワーカーさんや、福祉関係の学生さん、地域の民生委員さんが、遊びに来てくれることもあります。仕事が終わったヘルパーさんが、お話や休憩して帰られる場面も見かけられます。このスペースには、いただいた野菜や果物など、ご近所でできた作物をいただいたら置いておくと、それぞれのヘルパーさんが調理をして、入居者の胃袋に収まります。

ヘルパーさんの腕自慢競争にもなるようです。(笑)

- ③ ②の場所に入っていくようになると、自分も何かをしないといけないような気分になり、自分で、デイサービスや、作業所に通いたいと希望されるようになり始めます。
- ④ お小遣い帳をつけ始めたり、日記を書き始めたりする方もいらっしゃいます。
- ⑤ 家族と疎遠だった方に、保証人や緊急連絡先になっていただくことで、復縁をお願いしています。入居者の中には、兄弟なのに、何十年も疎遠だった方と復縁できるようにみんなでお墓参りに行ったりされていることもあります。
- ⑥ 週末には、自分たち（入居者）が考えたカフェを開き、記念日や気分によってはお好み焼きやたこ焼きパーティーをしています。また、カフェのオープン時間は、「おばちゃん気分とマスター4人の体調次第」ということ

にしています。

- ⑦ 入居中に不安で問題が起きた場合は、キーマンが支援者に連絡を取り、支援者によるケース会議を開く。(支援者会議ができないときは、メールで行われることもある。また本人の普段の生活を共有する意味でも、このメールが重要となることもある。)
- ⑧ 退院日は、各週の月曜日または、火曜日に退院しています。
週末だと、支援者が少なくなり、本人が不安になることを避けるためです。

Ⅲ、大家さんの心配・地域の方の心配

大家さんが、よく口にされる心配の中に、「壁に穴が開く」「暴れたらどうしよう…。」「御近所の人から聞かれたら…。」「世間体が悪い」「他の入居者が出てしまうのでは???」など、色々なご不安を耳にします。

自分が住みたいと思って決めた部屋だから大事に使用してくれませう。

ワーカーさんや支援者の都合で部屋は決まっています。よく聞かれる話ですが、ワーカーさんが、「その物件に入ると、通り道だから、仕事がしやすい。」などと本気で話してくださることもあります。(T_T)

「自分らしく生きたい。」 起きたいとき、寝たい時に自分が思うように決めて住む部屋。私たちは、そんな生活を送っているのに、精神障がい者の入居を、何故同じように考えられないのか疑問です。

家賃を払ってくれなかったらどうしよう。

- ① 金銭管理や意思能力が乏しい方のために、後見、補助補佐人がいます。
権利擁護システムを使って社会に出られた方もいます。
毎日、法律事務所にお金を取りに行っている方や、毎週自分の口座に、お金を振り込んでもらい、一週間お小遣い帳をつけながら頑張っておられる方もいらっしゃいます。中には、契約より、一か月余分の家賃を払いこんで、遅れてもいいように調整されている方もいます。

- ② 刃物を持って暴れたらどうしよう。

私は、18 年間精神障がい者の入居の支援をしてきました。しかし、刃物を持って暴れた方はいません。御近所の方を傷つけた入居者もいません。トラブルに巻き込まれて、困って電話をしてきた方はおられます。対処の中で、自分から、警察に電話をしたり、病院や、入居時のキーマンの方に連絡を取り、どうしたらよいか、相談しながら病気と付き合っていま

す。

③ アパートで自殺をされたらどうしよう。

自分が気に入った部屋で自殺して、血まみれになって、みんなに迷惑をかけることを良いことと思った方はまずいません。

セルフネグレクトでアルコール依存症の方が、アルコールを大量に飲酒され、亡くなられたケースはあります。この時は、入居時のキーマンから、入院する話は聞いたのですが、退院した話は聞いていませんでした。退院したのではなく、アルコールを院内で飲んだために、強制退去させられ、病院が、退院させたことを告知しなかったために、支援者への連絡が遅れ亡くなられました。退院したことがわかっていれば、ヘルパーさんや、地域包括支援センター、保健師さんなどの支援がつながっていれば、今もお元気だったかもしれません。

支援のネットワークが切れた方や、もともと支援のネットワークが組み立てられない方が、事件に巻き込まれやすい方のように思われます。

IV、長期入院者が多い「トキワソウ」の設備の配慮

私たちが部屋を借りるとき、アパートの大家さんは何を考えるでしょうか。「どんな設備や部屋を工夫すれば入居率が良いだろうか…。」

私たちが住むときにこだわるのは、インターネットや、スカパーなど、自分の仕事の便利さや、趣味を優先したりしませんか???

こんな考えを長期入院されている人のニーズに合わせて部屋を作ってみました。

① 台所の流し台の上は、フリーにしてみました。

長期入院された方のなかには、毎食お弁当を買われる方もいらっしゃいます。そんな方にとって、IHのコンロより、電子レンジのほうが便利かもしれない。オーブントースターやポットを好む方がいるかもしれない。そんな発想から、流し台の上は、本人が置いてほしいものを置くようにしてあります。

② 車の通りが多いので、外に飛び出しても、車との交通事故を配慮して、掃出しの窓を、中連窓にしました。

③ 給湯機の温度設定のほかに、蛇口をサーモ付きの蛇口にしました。お湯でやけどを防ぐためです。

- ④ 照明器具のスイッチを、1 か所にまとめました。
- ⑤ エアコンや照明器具は設備として、取り付けておきました。
- ⑥ 表の駐車場は、精神科医療センターの関係者に借りていただいています。
- ⑦ 車椅子のかたでも使用できるようにしています。

V、なぜ長期入院になるのでしょうか。病気以外にも理由があることがあります。

長期入院の方は退院時にほとんど荷物を持ち合わせていらっしゃらない方が多いのです。福祉事務所から生活保護申請をされ退院してこられる方がほとんどです。岡山市の場合、家具什器代は、約 25,000 円で、淋しさをまぎらわす一番必要なテレビは買えません。生活保護費から毎月、家財道具を買います。何年か経ち、生活が落ち着き始めたころ、体調を崩し入院したらせつかく買いそろえた家財道具は処分されてしまいます。精神障がい者が入院すると、福祉事務所のケースワーカーは、大家さんと相談します。大家さんが退去を希望すると、本人の家財道具（宝物）はゴミとして処分されることが多いのが現状です。

本人が何年もかけて一生懸命貯めた家財が、一瞬にして処分。本人は、入院中なので、自分の思いを伝えることも無く処分さえてしまうのです。家財道具を処分されたくないから、入院やお薬の変更時の入院を拒みます。このような入院の裏に隠された本人の思いから、入院拒否をするようになり、体調を崩し病気の悪化につながり、長期の入院になるケースも少なくありません。この事実を知った私は、大家さんと話し合いを持ちました。「入院しても、福祉事務所は数か月間家賃を払い続けることができる。」ことを伝えました。何も知らない大家さんは、入院したら退去。としか考えておらず、「家賃が入るならそのまま退去しなくてもいい。」むねの了解をくださいました。

福祉事務所は、ごみ処分代、退院時の初期費用、家具什器代布団代を払うより、大家さんと交渉を重ね、地域で暮らせるように配慮いただければ、もっと早く治療が行われ、自由な生活がおくれるのではないかと考えています。現実、私の管理するアパートでは、ほとんどの方が、長期入院になり、退去される方はいません。少し体調が悪ければ、早めに受診し入院をしなくなった方も、たくさんいらっしゃいます。

現在、（一社）岡山県の宅建協会では、「社会的弱者への賃貸住宅の支援特別委員会」を立ち上げました。

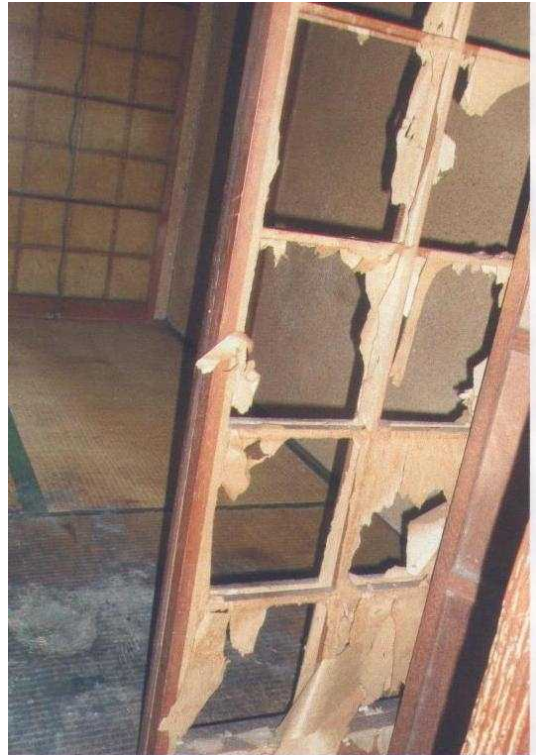
私がたくさんの精神障がい者の入居をかかえるのではなく、私が管理する物件から、それぞれが全国どこでも自由に住めるようになり、社会的弱者の入居者が減ることが私の夢です。

現在、私が支援している社会的弱者は、身体障害者、精神障がい者、刑余者、未成年の刑余者（少年院・鑑別所）、ホームレス、DV被害者（男性・女性・子供）、高齢者、病気（ハンセン病・らい病・エイズ被害者等）の、病気により、社会で働くことが難しい方です。











地域で生活するとき 必要なことは何？

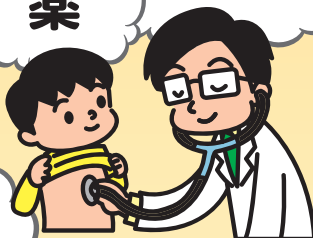
学校



地域包括
支援センター

薬

治療
(病院)



保護司さん

社会福祉士

保健師さん

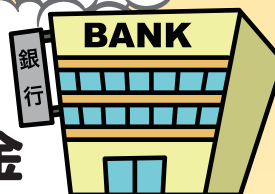
ご近所の人達

デイサービス



ヘルパーさん

お金



家族との
関係



スーパーや
コンビニ



ケア・マネさん

精神保健福祉士

後見人 補佐人
補助人

その他

訪問看護
ステーション

友達や恋人



おまわりさん

作業所
・A型
・B型

精神科の病院

福祉事務所

仕事に行くこと
ハローワーク

家のこと

児童相談所



自分



入 居 申 込 書

物件名

本人	氏名	
	生年月日	
	TEL	
	特記事項	

医療機関など	事業所名	
	担当者	
	TEL	
	FAX	
	住所	〒

関係行政機関	機関名称	
	担当者	
	TEL	
	FAX	
	住所	〒

財産管理者	財産管理者	
	種類	後見・保佐・補助・地権・契約
	担当者	
	TEL	
	住所	〒

介護支援者	事業者名	
	担当者	
	住所	〒
	TEL	
	備考	

介護支援者	事業者名	
	担当者	
	住所	〒
	TEL	
	備考	

介護支援者	事業者名	
	担当者	
	住所	〒
	TEL	
	備考	

介護支援者	事業者名	
	担当者	
	住所	〒
	TEL	
	備考	

その他関係機関	名称	
	担当者	
	TEL	
	名称	
	担当者	
	TEL	

家族・友人	名称	
	担当者	
	TEL	
	名称	
	担当者	
	TEL	